カラスの生態について

畜産業界では非常に厄介者の“カラス”。カラスの移動範囲は？何キロの重さの物まで持ち運べるの？などなど、誰も教えてくれないカラスについて少し知識を得たいと思い、目についたのが“カラス学のすすめ(著者:杉田昭栄、発行所：緑書房)”という本でした。今回、その概要をご紹介します。

日本で主に見られるカラスはハシブトカラスとハシボソカラスの２種類です。カラスは何年間生きるのか？諸説あるようですが、本書ではカラスの寿命は 12 年前後と推定していました。実験下で飼育していたカラスが 12 年で死んだという事実もあるようですが、動物の最長寿命は性成熟に要する期間の 5-6 倍という法則と、動物の一生の心拍数がおよそ 15 億回という事実から逆算する方法で推定していました。

カラスの体、特に“くちばし”は啄む、突く、咬むなど様々な用途に使われます。畜産現場でも石鹸を持っていかれた、死体を突かれたなどの話はよく聞きます。くちばしの突く力、引っ張る力はどれくらいの強さなのか。実験結果からハシブトカラスの雄は１平方センチ（ほぼ指先）を 2.7kg の力で突けるし、１kg 程度なら引っ張れることができるようです。割と強い力と感じますが、対策する際の参考になるかもしれません。また、カラスの“目”について、カラスの色覚は人の見えている色に加えて紫外線も見えているようです。カラス対策で“黄色が苦手だから黄色のゴミ袋を利用する”という話も聞きますが、それは間違いで、紫外線を吸収するゴミ袋であればカラスは中身が見えにくいということのようです。紫外線を吸収する色として、黒が代表的です。黒いビニール袋を使われることがカラス対策に良いかと思われます。

カラスは１日どれくらいの範囲を移動するのか？これについては GPS ロガーによる実験結果が紹介されていました。１日 20～60 キロを移動した例外的な“旅がらす”を除いた 34 羽の平均の移動距離は半径 5-6km の範囲内に収まるようです。例外はあるものの、割と狭い？範囲で行動しているようです。

カラスの知的行動について、本書で紹介されていたのは、カラスは 15 人の顔から特定の一人の顔を選ぶことができ、その記憶は１年以上保持されるようです。ただ、カラスの学習効率にも低下要因があり実験空間を狭くするなどストレスがかかると学習効率が低下します。畜舎もカラスにとっては狭い筈なので、他のストレスを与えられれば学習しにくい環境になるかもしれません。

例えば、いつも留まっている止まり木にとりもちを塗り居心地を悪くする、侵入口に防鳥ネットやテグスを張り、侵入しにくくする等、少しの工夫で、カラスにプレッシャーをかけることができます。

本書を読んでカラスは優れた能力を持つことを再認識しました。対策の難しさも感じますが、カラスにも必ず弱点があるはずです。この記事がカラス対策のきっかけになれば嬉しく思います。　（諸岡）